

会 議 議 事 録

会議の 名 称	生命倫理委員会	日 時	平成23年7月21日(木) 17:00～17:30
		場 所	大 会 議 室
出席者	委員長：森村統括診療部長 委 員：澤田臨床研究部長、柳田診療部長、内炭救急部長、岩井看護部長、 藤谷外部委員、久保田外部委員 <div style="text-align: right;">(書記) 庶務係長</div>		
議 題 及 び 討 議 事 項			
<p>【パーキンソン病における音声障害の訓練効果】 受付番号：23-2 頁数：1頁～8頁 (申請者：言語聴覚士 飯高 玄) 申請者説明：【目的】パーキンソン病に随伴する音声障害に対して、言語聴覚療法では呼吸・発声訓練を行っているが、その訓練効果について音声分析を用いて客観的評価を試みる。また、Voice Handicap Index (以下VHI) を用いて主観的評価も行い、音声分析結果との関連を検討する。【対象】PD4例(うち男性1例)。【方法】音声分析ソフトAcousticCore8を用いて、最長発声持続時間、声域を測定し、音波形の倍音数から声質の評価を行う。また、音圧計 (SD-328) で最大音圧を計測する。測定は、①訓練1セッション毎の訓練の開始時と終了時(複数回のセッションの平均値を求める)、②初回訓練前評価時及び2週間の訓練後に行う。③VHIを用いて最終の訓練終了時に患者の主観的な音声評価を行う。 審査内容：説明文書において、「データの保管について」の記述を加えること 審査結果：以上、修正した上で承認</p> <p>【経頭蓋磁気刺激検査の三点刺激法の錐体路障害診断における有用性の検証】 受付番号：23-3 頁数：9頁～14頁 (申請者：神経内科医師 山川 健太郎) 申請者説明：【目的】錐体路障害の診断における経頭蓋磁気刺激検査(三点刺激法)の有用性の検証である。【対象】錐体路障害を来す疾患の患者40名。【方法】対照患者に、①通常の磁気刺激検査(CMAP潜時を指標として用いるもの)、②三点刺激法を行う。①、②とも各1時間程度、検査に時間がかかるため、両者の検査は別々の日に行う。検査する筋は右、または左の一方の小指外転筋、または第1背側骨間筋とし、患者の病状によって個別に判断する。 三点刺激法は、先行論文で確立された方法を用いて行う。ただし、磁気刺激のコイルに先行論文では円形コイルを用いているが、本研究では、8の字コイルを用いる。8の字コイルを用いた方が、検査手技は難しくなるが、効率よく皮質を刺激できるため、磁気刺激の強度を下げられることが期待できる。電気刺激のうち、第1背側骨間筋の検査では、先行論文で正中神経手首部と尺骨神経手首部の同時刺激が必要とされているため、その通り行う。小指外転筋の検査では、正中神経支配筋からのCMAP</p>			

波形への影響が殆どないため、尺骨神経手首部の刺激のみでよいとされているが、個々の患者において事情が異なるため、必要であれば、正中神経手首部と尺骨神経手首部の同時刺激を行う。

審査内容：①説明文書に個人情報関係の文言を入れること。②P 17～18の文言削除。③患者の立場からすると抵抗がある文言となっているので、磁気刺激検査の痛みをわかりやすくすること。

審査結果：以上、修正した上で承認